

平成 19 年 5 月 22 日

「モンゴル国子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト」業務報告書

～第 1 年次事業の総括と第 2 年次事業計画立案に関する指導助言～

篠原文陽児（担当科目：IT 教育）

1. 出張期間 平成 19 年 4 月 30 日（月）～同年 5 月 14 日（月）
2. 目的 JICA 人間開発部による(株) コーエイ総合研究所と本学の 3 ケ年プロジェクト「モンゴル国初等中等教育指導法改善プロジェクト」事業を効果的かつ効率的に実施するため、第 1 年次事業の総括と第 2 年次事業計画立案等につき、モンゴル国カウンターパートとともにモンゴル国教育文化省及び実験校等の関係者および関係諸機関と意見交換及び協議を行い、すでに開発された「指導書」の改善に資するためワークショップを開催し、指導助言にあたる。
3. 現地業務の活動内容及び進捗

（1）活動内容の概要

- ①IT カウンターパートとの協議及び意見交換
 - （ア）IT ワーキンググループへの対処方針
- ②IT ワーキンググループとの協議及び意見交換
 - （ア）第 1 年次試行授業での成果と同指導書の改善及び充実
 - （イ）第 2 年次事業推進計画及び指導書開発の基本
 - （ウ）教科における IT 活用にかかるソフトウェアと教材等作成の基礎・基本
- ③教育省及び 4 センター各責任者との協議及び意見交換
 - （ア）各教科等「指導書」の編集（構成、内容等）に関する基本的な共通理解
- ④「第 2 年次指導書開発ワークショップ」における指導及び助言
 - （ア）第 2 年次事業推進計画及び同指導書構成案等
- ⑤その他
 - （ア）モンゴル国 IT 教育研究大会への参加
 - （イ）第 2 年次モンゴル国内研修等における特別講演等にかかる協議

（2）活動の成果と課題

①第 1 年次「指導書」改善への提言

およそ今年（平成 19 年）7 月までの限られた期間の中で、本プロジェクト関係者のみならず、モンゴル国のすべての教員等が活用する指導書であることから、以下の点に留

意して改善に努めることとした。

(ア) 用語集 (Glossary) の作成 (「IT 教育」固有及び各教科共通を含む)。

(例) モニタリングと授業観察、モニタリングフォームと授業観察シートあるいは授業観察フォーム、授業研と研究授業、授業評価と学習評価、プログラムとカリキュラムあるいは教育課程、教育課程と授業過程、教授方略と教授タクティクス、つまづきと誤り、等。

(イ) 1992 年以前のカリキュラムと異なり、「新教育スタンダード」ではスパイラルカリキュラムの編成がその理念であること。

(ウ) 教育の目的領域である 4 つのコンピテンシー (K1~K4) との関連が、各授業案等の目標に明記されていること

(エ) 他教科及び教科等内の他領域との関連が明記されていること。

②第 2 年次事業推進計画等

(ア) 事業の組織

L. Choijovanchig IT 指導法開発センター長 (IT 教科リーダー)

L. Munkhtuya IT 指導法開発センター

B. Zolzaya IT 指導法開発センター

Ts. Chimedlkham 教育研究所研究員

D. Altantuya UB 教育科学局指導主事

D. Narantuya Selenge 県教育文化局指導主事

B. Byambakhand Dornod 県教育文化局指導主事

Ts. Baasanjav #97School, UB

D. Delgertsetseg #45School, UB

B. Erdenechimeg Setgemj School, UB

E. Altangerel Khan-Uul School, Dornod

B. Ganbaatar #5School, Dornod

Kh. Solongo #5School, Dornod

Ts. Altantsooj #4School, Selenge

G. Giikhtuya #1School, Selenge

L. Oyun Khushaat Sum School, Selenge

(イ) 事業の推進日程案

1) 指導書素案の執筆	2007 年 7 月～9 月	L. Choijovanchig L. Munkhtuya
2) 指導書素案の検討	2007 年 10 月～2 月	全員
3) ワークショップの開催	2007 年 12 月	全員
4) 実験授業の試行	2008 年 2 月～4 月	全員
5) 指導書改善	2008 年 4 月～5 月	全員

(ウ) 開発単元案

第1年次における「情報」領域（第5、第6年生対象）に引き続き、本事業の目的を踏まえ、同一の領域に関して、発達段階の異なる第7、第8年生（中学生）を対象に、指導書を作成し、「子どもの発達を支援する指導法改善」に資する指導書作成及びこれに関わる教員研修のモデル化を図ることとした。

学年	時間数	単元内容
7	6	情報と知識 情報の受信とことば 情報のプロセス 情報の量と質 ITの歴史 数とシステム
8	6	身の回りの情報 情報科学の基礎 情報科学と教科教育 情報プロセス

(エ) 指導書の目的と構成案

1) 指導書の目的

- ア) 子供がいろいろな情報と対話し、創造的に知識をつくる方法を身に付ける。
- イ) 教員に基礎教育段階で新しい指導法を開発することを支援し、活用させる。

2) 指導書の構成案（全150ページ）

- ア) 前書き、指導書使用説明、指導書の目的
- イ) 基礎教育でITを教える指導法、知識を創造させる指導法
- ウ) 単元授業カリキュラム例、課題例
- エ) 評価方法
- オ) 付録
 - ・用語集
 - ・教科におけるIT活用の意義と各科教員に期待されるIT技能
 - ・他教科でのIT活用事例集、有用なソフトウェア
 - ・参考資料
 - ・CD
 - ・新教育スタンダード（抜粋）

③課題

IT教育の領域ではなく事業全体の推進にかかわって

- (ア) 期待される成果のうち基礎的事項に関わる明確で体系的な情報提供と共有
- (イ) 通訳を含めたプロジェクト関係者相互による国際的な視野に立つ「用語」の使用が、強く求められる。

以上